

2015.4

編集発行人・吉田隆司

毎月1回、1日発行

定価1部100円/1年1000円(送共)

郵便振替 東京00100-0-38184

〒112-0004東京都文京区後楽1-5-3

TEL. 03-3814-3591

FAX. 03-3814-3590

Website: <http://www.rizhong.org/>

E-mail: [info@rizhong.org](mailto:info@rizhong.org)



2015年3月14日  
本科日本語科合同卒業式

## A先生の新語コーナー



### xin cháng tài “新常态”

新常态（ニューノーマル）。常態は正常な状態のこと。習近平政権は、経済成長が鈍化する時代を「新常态」と名付けた。中国の昨年の国内総生産（GDP）成長率は、7.4%で、前年を0.3ポイント下回り、減速傾向が続いている。新常态の最も重要な特徴は、中国経済が高度経済成長から中高速增长へ転じつつあることだ。昨年12月中央経済工作会议では、規模拡大と速度重視の粗放型発展から質と効率重視の集約型発展へ移行する方針が示された。

(A)

## ようこそ！ 学院へ

学院長 吉田隆司

日中学院にようこそおいでくださいました。日中学院には敷居がないのですが、敷居が高いというイメージを与えているようです。いかがですか、皆さんを拒むような敷居はありましたか。ちょっとかたさが感じられるのはご勘弁ください。1951年の創設から65年間、地道に日本と中国の友好を願って運営してきた地味さが目立っているようです。戦後の日中関係を体現しているところとも言えます。

日中学院の掲示板には久しぶり多くの求人票が貼りだされています。その多くが商品の販売関連の職種です。日中関係が芳しくない中、春節には中国から大勢の観光客が日本を訪れ、いわゆる「爆買」のニュースが話題になりました。京都や奈良に中国人観光客が溢れたというニュースが伝わってこない中、帰国の際の託送荷物の多さに焦点をあてた報道を見て、やっかみ半分、感謝半分でした。日本製品のどこに好まれるところがあるのでしょうか？そのあたりを中国人に尋ねてみませんか？中国理解にも

つながるのではないのでしょうか。

訪日中国人はこのように増え、街に出れば必ずと言えるほど中国語が聞こえてきます。ところが、日本の新聞にはかつて溢れていた中国訪問観光ツアーの宣伝を見ることはなかなかありません。中国語学習者は増えない、「嫌中」を誘う言葉、書籍が並ぶ、これが今の世相です。縮こまってしまい、「おもしろ中国」に向かえないでいるように見えます。そんな世相の中、みなさんは日中学院に入学されました。なぜ日中学院で学ばれるのですか？みなさんをお迎えする側としてはとても知りたいところです。私たちはメディアを通じ日本と中国について様々なイメージをもっています。日中学院には中国語、日本語を学ぶ、日本人、中国人が直接ふれあうことが出来る場所です。この環境を大切に、どうぞこれまでの中国、日本へのイメージは何だったのか確かめてください。

今日から同じ学院で学ぶ仲間「同学」です、どうぞよろしく！

## 歓迎！歓迎！ 本科 高木美鳥

春四月、日本では新たに会社や学校などが始まる季節。新たに入学生なされた方、進級された方、ようこそ日中学院へ！政治的には日中はいろいろ厳しい状況にありますが、経済的交流、民間の交流は切っても切り離せません。

「交流」とは何かと考えると、どんなにデジタルな時代でもやっぱり人と人の言葉のやり取りですよね。メールやラインも含め、言葉を使って声をかけ、挨拶を交わし、互いの意を汲んだり、意見を戦わせたりする…たとえ喧嘩して黙ったとしても、その後声をかけられたら、また気持ちがつながりませんか。仕事などのために、「ツール」として身につけるのであっても、言葉が行き来すれば心も通うでし

よう。そして道具は常に磨いていなければいざという時に使えません。来る目的に備え、シミュレーションし鍛えておきましょう。昨今来日が増えた中国人観光客のお手伝いでも、5年後の東京オリンピックのボランティアでも中国語はますます需要があるでしょう。中国映画やドラマもまた日本上陸の機会が増えてきました。みなさんの道具がより効果的に力を発揮するよう、私たち講師陣は喜んで尽力いたします。最近気に入っているあるCMの受け売りですが「努力する人は希望を語り、怠慢な人は不満を語る」のだそうです。ともに努力して、中国語を使う希望を語り合いましょう！

## 新入生歓迎あいさつ 日本語科 松本朝子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。  
皆さんは、日中学院で日本語を身につけ、日本の大学や大学院へ進もうとこれからの学校生活に期待していらっしゃることでしょう。そんなみなさんにわたくしから二つ、お話ししたいことがあります。

みなさんは大学、大学院に進学するためにこれから毎日、日本語の勉強に追われる日々を過ごすことになります。新しい環境で生活していくのは、大変なことも多いと思います。途中で「どうして日本に来たんだろう」と悩むこともあるかもしれませんが、しかし、そんなときは私たち教師や事務の方々、周りにいる友人たちに話してみてください。話してみると、不思議と気持ちが明るくなり、また日本での生活をつづける勇気が湧いてきます。

もうひとつお話ししたいことは、  
「初心忘るべからず」  
です。日本へやってきたばかりの今の気持ちを、辛く寂しい時に思い出して、もういちどがんばっ

てみてください。皆さんが夢を叶えられるよう、精一杯応援していきたいと考えています。

2年という月日は長いようですが、過ぎてしまうとあっという間です。夢に向かって勉強を続け、ぜひ、目標を達成してください。卒業生も日中学院で学んだことを基に、それぞれの場で活躍しています。

日中学院では、中国語を学ぶ方々と交流する機会が多く、日本の生の声が聞けます。学校ではぜひ日本語で話し、日本語力を高めてください。そして、日本の文化や習慣も同時に理解を深めてください。今までの卒業生が苦しい環境に負けず希望をかなえられた背景には、本人の努力だけではなく、日本の方々の協力もあります。日本語と中国語、お互いに助け合いながら交流を深めることができるのは、たいへんすばらしいことです。

皆さんの留学生活が実りあるものとなり、日中両国の友好の架け橋となるにふさわしい方とられることを祈っています。



## 学如登山無止境 別科担当 胡興智

春が来たので、春風に吹かれながら山道を歩きたくなり、先日、「学生」、正確に言えば「学友」と一緒に金時山に登ってきた。

一緒に山に登った日本人の学友が登山口に向かうバスの中で次のような漢俳を作ってくれた。

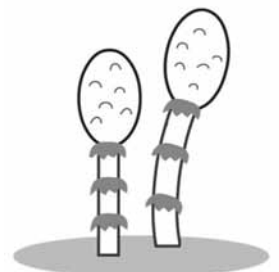
车窗望山径  
一山櫻花红色映  
爬山添趣兴

登りながら日常と異なる風景を楽しみ、頂上立つと達成感、爽快感が味わえ、下山後の温泉ではこの上ない喜びに浸り、登り下りの苦楽を友と語り合いながら、次の山を決める。

学ぶことは山登りに似ていると言われるが、山

登りとは学ぶことそのものだと思う。一つの山に登ればまた次の山が、私たちに手招きしている。古人曰く、「更上一层楼」、「より高いところに」登れば素晴らしい景色が眺められる。

この句は、卒業や新しく門出を迎える人に贈る言葉としてもよく引用される。古人に学び、学友と一緒に「再爬一座山」できればと思う。一人でも多くの学友に出会い、これから学びの道に広がっているであろう素晴らしい風景を楽しみに、また一緒に山登りを楽しもうと思う。



## 副院長就任にあたって 鈴木 繁

大家好！

1972年日中国交正常化の年に日中学院で中国語を学び、その7年後に別科の非常勤講師に採用され、現在まで勤めてきました。

私が学んでいた時代の学生数は900名近くいましたが、今はその半分近くまで減少した結果、この5年間の累積赤字は大きくそして重く学院財政にのしかかっています。しかしこのような巨額な赤字のなかにあっても運営がこのように保たれているのは、ひとえに今は退職された教職員、そしてその時々在校生の方々の智慧と努力によるところが大です。仮に「普通の学校」であればすでに解散の憂き目をみているはず。「中国語を学んで日中友好の架け橋になろう！」の理念のもと将来をも見据え、透明性と公正さで運営してきた方々がいてこその日中学院だと思います。今回副院長として運営に携わる側に立つわけですが、学院の創設と発展に貢献された方々の意思を継承し、更なる発展を目指して尽力していく所存です。

中国語学習者の増減は、英語と違いもろに日中の政治状況に左右されるのが実情ですが、日中の経済関係を見ますとすでに双方切ってもきれないほどの結びつきとなっており、2月28日の日経新聞によれば2012年に海外留学した日本人の中で中国を選んだ人が米国を抜いてトップとなったという記事が掲載されていました。また周知のように日本を訪れる中国人観光客も飛躍的に伸び、様々な業種で中国人観光客を取り込むための方策をたてています。個人的見解ですが、学院財政の安定化を考えた場合、中国語を「学びたい」という対象から「学ばざるを得ない」新たな需要層に目を向け、カリキュラムほかの改革に着手する段階に来ているのではないかと思います。

2015年4月1日



### 「酸甜苦辣五七五」

gāng xué hàn yǔ shí  
刚学汉语时

中国語を習い始めた時

mā má mǎ mà tài má fan  
妈麻马骂太麻烦

声調は難しかった

yǐ jīng hěn hǎo le  
已经很好了

今は何とかやっている

中西真



中国語を習う時、最初に「出会う」壁が「声調」であることに、異論はないでしょう。声調の良し悪しは、日本語のアクセントとは比べ物にならない重みがあり、むしろ助詞の「てにをは」に近いと言ってくれた日本語の教師がいました。作者も同じ壁に「出会った」に違いありませんが、今、日中友好協会弁論大会で一等賞を取り、NHKワールドの广播主持人大赛「ラジオパーソナリティーコンテスト」の第一位になり、「已经很好了」と言えるまで成長されました。授業の後日中学院のロビーで夜遅くまで、習った単語や表現を口でブツブツ言ったり、文章を朗読したりしているので、「学校に住んでいる」と冗談を言われるほど、語学を楽しんでおられるようです。

『聴く中国語』(3号P92より)

# 父と娘姉妹・一家3人が学んだ「日中学院」



父親：斎藤文男

(本科18期生・元中国南京大学日本語学部専攻)

長女：斎藤 愛

(別科修了・米国在住、日中英通訳・翻訳)

次女：坂口 恵

(別科修了・中国語大学修了、日本語サポート指導)

気が付けば父と2人の娘の一家3人が、日中学院で中国語を学んでいた。親が勧めたわけではない。娘たちは自分の判断で決めて入学したのだが、中国語を介して、それぞれ楽しく充実した人生を送っている。以下は3人から日中学院へお礼としての報告です。



父親：斎藤文男

(本科18期生・元中国南京大学日本語学部専攻)

～卒業ならずも、楽しく充実した学院生活～

1980年12月。毎日新聞水戸支局から東京本社に転勤になった。支局では取材をして原稿を本社に出稿する外勤記者だった。本社では一線記者の原稿を受け取り、紙面を作る内勤の編集記者と立場が逆になった。仕事は夕方から深夜にかけてである。昼間はまったくフリーの時間だった。以前から中国の歴史、文学、音楽、料理など中国に関するものならなんでも興味があつた。フリーの時間は毎日ある。家族5人で異動した転勤旅費もまとまってある。このヒマとカネを活用して中国語を本格的にやろうと、翌1981年春、日中学院本科に入学した。大学を卒業してから15年目に再び学ぶ社会人学生になった。

## 親子や孫が一緒のようなクラス仲間

学院の校舎は善隣学生会館（現日中友好会館）の古色蒼然とした建物の敷地内にあつた。学生は高校や短大を卒業したばかりの若い人に加えて、主婦、定年退職した年配者、それに15年振りまで学生になった中年の社会人などである。年齢も10歳代から70歳代までかなりの幅があつた。通常の学校で学ぶ同一年齢ではなく、親子や孫たちが一緒に机を並べているようで、クラス内は家庭的な雰囲気包まれていた。休み時間や放課後には、定年退職者が現役の時の話や、私が事件取材や山火事、地震

災害の話をする、若い人たちは興味深そうに取り囲んで聞いていた。

月曜日から金曜日まで、毎日朝9時からの授業はまず発音練習である。一声から四声まで、クラス全員が「ma」の音で四声の発音を練習していると、学院の庭木にいたカラスが、最後の第四声の「マァー」の後に「カァー」と同じ第四声で続けた。発音を指導していた李秀清先生は真面目な顔で「そう、カラスの鳴き声は第四声ですよ。あの調子でね」と説明すると、また一声から発音を繰り返した。第四声のところにくるとカラスがまた「カァー」と真似をした。のどかで楽しい発音練習だった。

## 心に残る藤堂院長の重みある言葉

李先生の発音指導がよかったおかげで1年生の時、学院祭の弁論大会では優勝することができた。大らかなで正義感に富んだ“女性金八先生”の平松正子先生の指導では、毎年文化祭で2回も中国語劇を演じることができた。セリフの口調や感情の表現は葉君海先生に教えていただいた。

創立30周年記念の学園祭では、アコーデオンの名手で歌や踊り、演劇など多才な安海生先生から腰鼓の踊りの振り付けを習い、クラス仲間と一緒に舞台上で踊った。現在でも漢字のピンインがすらすら出てくるのは1年生の時の担任で「ミスター・ピンイン」と呼ばれた吉田隆司先生（現院長）の指導だった。

当時院長だった藤堂明保先生の「喧嘩をして殴られた人の痛みを忘れるな」との言葉は、日中関係を考える時いつも重みのある言葉として心に残っている。

## 親の背中を見ながら育った娘たち

自宅から毎朝7時5分のバスで駅に行き、私鉄と地下鉄を乗り継ぎ、昼間は日中学院、夜は新聞編集記者。帰宅は毎日午前1時か2時の“午前さま”。自宅滞在時間は5～6時間だった。体力的にはかなりきつかったが、本科2年間の学生生活は実に楽しく、大学4年間の生活にも匹敵するほど充実した学院生活だった。残念ながら出席日数が足りず、本科卒

業はできなかった。しかし、新聞記者を定年退職して、南京に長期滞在しているときは、学んだ中国語に随分と助けられ「まほらまの南京生活」だったのは嬉しかった。

また、娘2人が父と同じ学院に通ったことも嬉しかった。私は娘たちに「日中学院で中国語を勉強しろ」とは一度も言ったことはない。自身の興味と関心で判断して決めたようだ。親はあれこれ言わずとも、子供は親の背中を見ながら育つことを実感した。父娘3人を育ててくれた日中学院の先生方ありがとうございました。



長女：齋藤 愛

(別科修了・米国在住 日中英通訳・翻訳)

～中国語の勉強を続ける父を見て～

日中学院には大学に入学した1989年春から、まづ午前中の別科に通い始めた。大学は二部だったので転部を目標に受験勉強を続けることになった。第二外国語も受験科目のなかにあり、私は中国語を選んだのだ。なぜ中国語だったのか。高校時代に習った「長恨歌」などの漢文が好きだったためと、父が仕事をしながら中国語の勉強を続けていたのを見ていたためだ。朝になるとラジオ中国語講座のテーマ音楽「北風吹」が聞こえてくる。知っているようなメロディなのに、明らかに異国の音楽だとわかった。慕わしいのに、ほんの少し違和感を抱かせる。この曲に抱いた感想は、そのまま中国語や中国の文化に対しても抱くことになった。

中国人留学生の「仏花」と「北風吹」

夏休みになって別科の同級生が、私たちクラスメートと中国からの留学生を自宅に招いてくれた。そのお宅での出来事はさっぱり覚えていないのに、お宅までの道中に起こったある一件だけが、忘れようにも忘れられない。中国からの留学生二人は、理知的でとても落ち着いた雰囲気の大人の女性だった。手みやげにお花を買おうという相談になって、途中で花屋に寄った。すると二人は迷うことなく「仏花」を手にとりレジへ向かおうとするではないか。私たちはあわてて「それはダメ、お仏様にお供えするものだから」と止めたが、二人はたいへんに怪訝

そうな顔をしていた。「どうして？これはとてもきれいですよ」と言っていたような気がする。大ぶりの菊が何本か入ったその花束は確かに、きれいだった。そのときまた、「北風吹」のメロディを耳にしたときと同じ違和感が胸にわき起こった。同時に、私も中国へ行ったら同じような失敗をするかもしれない、と予感した。

日中英三カ国語の中で育つ娘たち

1992年の秋、大学を休学して南京大学へ留学した。中国でなければ留学はしなかっただろうが、結果から考えるとそのときは「日本の外から祖国と自分自身を見てみたかった」のだと思う。日本と似ているようでほんの少しの違和感を抱かせながら魅力満々の中国は、その点から言ってしまうとつけの国だった。

そこに留学していた中国系アメリカ人の学生と知り合い、結婚を機にアメリカに移住し現在は娘二人を授かった。彼女らの母語は日本語と英語だが、両親や祖父母が中国語を話しているのを聞いているので、耳は準備できていたのだろう。幼稚園から日中英の三カ国語を使用する私立学校に入学し、「李老師がねえ～、穿靴子穿靴子って言うんだよ」とよく使われる表現を覚えたり、「小朋友、想一想、什么動物鼻子長～」などの歌を覚えて来ている。

米国で「中国語ができるなんていいなあ」

大学では1年の終わりに転部試験に合格し、東洋哲学専攻を卒業できた。南京大学では中国人学生との交流をはじめ世界各国からの留学生と知り合いになることができ、「日中関係」という枠組みだけではない世界へ目を向けられるようになった。またそこで生涯の伴侶を得て米国へわたると、今度は「アメリカの中国人社会」にも触れることになった。アメリカに住む日本の方々とも知り合う機会が多いが、「中国語ができるなんていいなあ」と言われることもしばしば。わかる言葉の数が多ければ多いほど、さまざまな視点を確保でき、物事を多角的にとらえることができる。社会に出る前に日中学院に通って中国語を勉強できたことは、とても幸運だった。平松老師のニュース聞き取りをやり始めた頃などは、何を言われているのかさっぱりわからず呆然として

いたが、お世話になって本当によかったと思う。どうもありがとうございました。



次女：坂口 恵

(別科修了・中国語大学修了、日本語サポート指導)

～中国との“縁は異なるもの味なもの”～

まさか自分が日中学院に通うことになるとは、夢にも思わなかった。

私にとって中国は、わりと身近な存在だった。物心がついた時には、朝、学校に行く支度の合間に、父の聴くラジオやテレビから流れる中国語講座の音を聞いていた。しかしその時は、自分までもが日中学院に通い中国語を学び、北京へ留学し、その後人生の中で中国語がとても重要な位置を占めるようになるとは思ってもいなかった。

#### 流れる歌のような中国語の発音

日中学院に通い始めたのは2010年4月。実家を離れてからまったく中国語に触れる機会のない生活をしてきたが、ふとしたことをきっかけに中国語を勉強しようと決意したのだった。数ある語学の中でなぜ中国語を選んだかといえば、やはり父と姉の影響が大きいと思う。

私は中国語の音がとても好きだ。その流れるような歌のような発音は、聞いていてとても落ち着く。そしてわくわくする。きっとそれは、幼い頃からその音をよく耳にしていたというのが理由のひとつだろう。中華料理も中国茶も好き。中国の武術や映画も好き。たまに行く中華料理店の中国人の店員さんの日本人とは違う接客の感じも好き。よく考えると、私が中国語を学ぶのは自然な流れだったのではないかと思う。

#### 忘れられない胡興智老師の言葉

忘れもしない日中学院での授業第一日目。胡興智老師が教室に入ってきて、いきなり早口で中国語を話し始めた。私たち生徒はもちろん中国語を聞き取れる人などなく、皆あぜんとして不安な顔で胡老師を見つめていた。すると胡老師は笑い出して、「びっくりしたでしょう！大丈夫！私は日本語を話すことができますよ！ははは」とおっしゃり、皆もようやく

大笑い。クラスの緊張した空気が一気に柔らかくなったのを覚えている。そして、胡老師はいつも授業の時に「失敗を恐れてはいけません。わからないから勉強するのであり、間違えて当たり前なのです」とおっしゃり、私はそれまでの自分の勉強方法がまちがっていたということを知り、学ぶことがとても楽しくなった。「学ぶということは、生涯続くのです。年老いても学び続けることが大事だと思います」という言葉も私の勉強に対する考え方を変えてくださった。これから先、私も胡老師のこれらの言葉を他の人たちに伝えていけるようになりたいと思う。

#### 「助けて助けられて」の互助精神

日中学院の先生方は皆本当に素晴らしく、私は恵まれていたと強く思う。卒業した今でも時おり日中学院へ遊びに行くのだが、校舎に入ると気持ちがとても温かくなり、学び舎へ帰ってきたという感じがなんとも嬉しい。

日中学院で約三年間学び、2013年冬到北京へ留学した。北京でも数多くの人に支えられて留學生活を送ったが、中でも特にお世話になった方の言葉が忘れられない。その人は初めての中国での生活で不安だらけの私を心配してくれて、いろいろと面倒をみてくれた。私がなんとお礼をしたらいいかわからないと言うと、「私は以前日本に行った時に、日本人に助けてもらったことがある。そのときの恩を今返しているのです、あなたもこれから先に誰かが困った時にその人のことを助けてあげれば、それでよい。そしてその人がまた誰かを助ければいいのだよ」と言ってくれた。その人の言葉を聞いて私は目の覚めるような思いがした。そして2014年夏に留學を終え日本に帰り、現在は東京で中国人の小学生に日本語を教えている。

こうして思い返してみると、「私と中国」を取り巻く環境は本当にどれも素晴らしいものばかりで、私の好きな中国語のひとつが思い出される。それは、“有缘分”。「縁がある」という日本にも同じような言葉があるが、中国語の方がもっともっと深い意味があるような気がする。私は中国の言葉や人と触れ合う時にいつも思う、“我和中国真有缘分”。

# 図書室 だより

## 使おう図書室！

ご入学おめでとうございます。図書室では2万点以上にも上る膨大な資料を用意して皆様のご来室をお待ちしております。これらの図書は、きっと皆様の予習復習・検定対策・仕事等に役立つことと思います。

### 《利用の仕方》

当学院の学生、校友会会員の方であれば、どなたでもご利用いただけます。クラスによっては最初の授業で図書カードと利用の手引きをお配りします。

### 《開室時間》

月曜日～金曜日：12：00～18：45  
(別科休み期間は17：45まで)  
土曜日：12：00～18：00  
(別科休み期間中は閉室)

### 《貸出期間・冊数》

本 ……5冊以内  
視聴覚資料…3点  
(内DVDは2点まで)  
貸し出し期間…2週間  
(長期休業前は貸出冊数が増えます)  
時間外の図書の返却は事務室に預けてください。  
★資料によっては学院内だけの閲覧になりますので、係員に声を掛けてください。

### 《ご利用方法》

ご利用には「図書カード」(図書貸出証)が必要になります。お持ちでない方はお申し出下さい。図書室で発行し、当日借りられます。(但しバーコードが付くまで1週間ほどかかります。)

当図書室では、現在旧来の貸し出し方法からバーコードを使っているの貸し出しに移行しております。資料のバーコード登録を鋭意進めておりますが、資料によってはバーコード化されていません。ご不便をおかけしますがご了承ください。

### 《予約ができます》

読みたい本や見たいDVD等が貸し出し中の時、予約しておく便利です。購入リクエストも受け付けております。手続きは簡単ですので係員にお申し付けください。

### 《豊富な資料・貴重な資料》

室内は狭いながら、電動式書棚を使って管理しているため、大量の図書が配架されています。中には古書店でも入手困難なものもあります。殊に中文書籍は、他の図書館にも引けを取らない質・量があり、当学院の誇りです。語学書以外にも様々なジャンルの資料がありますので、皆様の意に沿えると思います。

### ◆映画で学ぶ◆

時には学習から離れて映像の世界に浸るのも良いものです。往年の名作から最新のものまで映画やドラマのDVDが、中国で発売されたものも含めて約700本以上の作品があります。また、映画によってはシナリオもありますので、字幕に頼らないで映画を観るなど、視聴覚教材を自分流に使うと楽しんでみてください。

### ◆新聞・雑誌もあります◆

月刊『聴く中国語』や、中国で出版された語学誌『学汉语』、文学誌『小説月報』『读者』、映画雑誌『大众电影』等の雑誌やNHKのテレビ・ラジオの各講座のテキスト等があります。図書室前廊下には「人民日報」も

置いてありますので、最新の中国を知ることが出来ます。

### 《図書紹介》

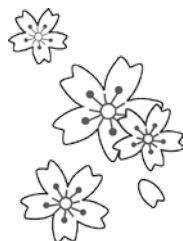
- 『中国語五十年』倉石武四郎著 1974 岩波書店
- 『中国語はこんなに日本語と似ている』樋口真二著 2014 東京図書出版
- 『図説清明上河図』楊新他著関野喜久子訳 2015 科学出版社東京
- 『亜鈴式で鍛える中国語コケーション999』相原茂著 2014 朝日出版社
- 『北京便り-中国の真の面影』孫歌著 2015 岩波書店
- 『第七天』余華著 2013 新星出版社
- 『知日-萌』蘇静主編 2015 中信出版社

### 《視聴覚資料 (DVD)》

- 『四川の歌』賈樟柯監督出演：陳沖・呂麗萍他
- 『サンザシの樹の下で』張芸謀監督出演：チョウ・ドンユイ他
- 『三姉妹-雲南の子』王兵監督、日本語字幕翻訳：樋口裕子(本学講師)

### 《ご利用に当たってのお願い》

- ★新着図書や雑誌・DVDについては掲示板をご覧ください。
- ★返却期日をお守りください。貸し出しの延長をご希望される方は連絡してください。
- ★図書への書き込みは決してしないで下さい。次に利用される方が気持ちよく使えるようご協力下さい。
- ★書架を移動するときは係員に声をかけて下さい。その他ご不明な点は遠慮なく係員にお尋ねください。



# 4月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
			1	2	3 ●別科 公開講座 18:45～	4 ●本科・日本語科 合同入学式 ●別科公開講座 14:00～
5	6	7	8 ●別科257期開始	9	10 ●本科・日本語科 授業開始 ●本科・日本語科 オリエンテーション	11
12	13	14	15 ●中国語検定受付 開始	16 ●本科 学生支援 機構奨学金受付 開始	17	18
19	20	21	22	23	24 ●本科・日本語科 都内見学	25
26	27	28	29 ●本科・日本語科・ 別科 GW休暇 開始(～5/6)	30		

●5月の日中学院  
・7日…本科・日本語科・別科授業再開  
本科 学生支援機構奨学金受付締切

・11日…本科 発音補助  
・15日…本科 (2年・研究)・日本語科 健康診断  
中国語検定受付締切

・19日…本科・日本語科合同合宿(～20日)  
・29日…本科2年短期留学説明会  
日本語科資格外活動説明会

## ■耳目

### ○特別公開講座 第一回 『中国で働く楽しみ』

今回の「特別公開講座」第1回は、日中友好会館の武田勝年理事長に「中国で働く楽しみ」についてお話を頂きます。

武田理事長は、かつて学院で学ばれた大先輩ですが、お仕事では上海三菱商事総経理、中国総代表を歴任されるなど、16年に及ぶ中国駐在という貴重な経験をお持ちです。

申込み：日中学院事務局へお電話  
又は直接お申し込み下さい。

日時：5月16日(土)  
13:00～15:00  
受講料：500円(税込、入学金不要)  
当日、教室入口でお支払下さい。  
教室：日中学院302教室



### ○本科の授業を受けてみませんか？

2015年より新たに、一部本科の授業を本科生以外の方にも受講いただけるようになりました！

○講読(月) 10:45～12:45

○日本語教授法

(月) 13:30～15:00

○太極拳

(木) 13:30～15:00

※講読については、レベルチェックが必要になります。

詳しい、案内書は別紙パンフレットをご参照ください。

## 【編集後記】

中国と日本の違いについて、皆様から募集したところ、中国と日本の入浴の習慣についてお便りを頂きました。中国では、シャワーが一般的で一人で入ることが多いので、日本の温泉ではとても驚かれる事があるとの事でした。日本の方が中国で部屋を借りる場合、浴槽付の部屋を希望されるようですが、浴槽付の部屋は家賃も高く中々見つからないと言う話を聞く事があります。中国では「洗操」というと「体を洗う」というイメージが強いようです。又、日本の旅館の場合、風呂が大きい、きれい等を大々的に宣伝しますが、同じ旅館を宣伝するにしても、中国では料理や周りの景色などを主に紹介されるでしょう。(D)